

2022年度 清和大学 法学部 入学者選抜 一般選抜

出題のねらいと対策

清和大学の一般選抜では、法学部で学ぼうという意欲を持つ皆さんに考えてほしいテーマをもとに問題作成をしています。今回は「民主主義」を大きなテーマとして、「英語」・「国語」・「公民」・「小論文」を出題しました。出題のねらいと対策について、コメントをまとめましたので、参考にしてください。

1. 一般選抜入試でどのような能力を測りたいか（出題の構成とねらい）

【英語】

出題文の内容を精確に理解し、そのうえで受験者が自分の意見を論理的に述べるができるかを測ることを主たるねらいとしています（問1・5・6）。これと併せて、高校までに学習している基本的な英文法理解、文意を捉え精確に和訳する力を測ることもねらいとしています（問2・3・4）。また問2では、精確に和訳をするための（現代史等の社会科学科目の）基本的な知識が確実に身につけているかも測るねらいがあります。

【国語】

民主主義の重要性ばかりではなく、それと同時に考えなければならない点について指摘している文章を取り上げました。まず漢字の読み書きについてです（問一・二）。あえて紛らわしいものを出題していますが、いずれも通常よく用いられるものであり、ぜひ確実に身につけておいてほしいというものばかりを選んでいきます。

内容については、もちろん一文ごとの意味を把握することは大切ですが、それとともに、文と文の関わりや、文章全体をどう理解すべきか、筆者はどのようなことを主張しているのかを考えてほしいというものです（問三～六）。

【公民】

「民主主義」というテーマに関連して、18歳を取り巻く社会的状況として、選挙権と成年年齢を取り上げました。基本的な知識の確認をねらいとして、今回はすべて択一式で出題しましたが、毎年このような形式とは限りませんので注意してください。

内容については、選挙制度に関連する知識を多角的に取り上げたほか、時事問題への理解を確認するために成年年齢の18歳への引き下げに重点を置きました（問5・10・11）。問7の合区はやや細かい知識ですが、地方が置かれた現状に目を向けてほしいと考えました。また、問8ではドント式の計算問題を出題し、知識を活用する力を見ることをねらいとしました。

【小論文】

今回は「民主主義」という大きなテーマのもと、若者の政治参加を取り上げました。総務省のまとめによれば、2021年10月の第49回衆議院議員総選挙では、全体の投票率が55.93%だった中で、10歳代は43.21%、20歳代は36.50%にとどまり、若者の低投票率が続いています。本問ではなぜこのような状況が続くのか、そしてどうしていくべきか、社会との関わりの中で主権者としての自らの考えを問うことをねらいとしました。

2. 一般選抜入試に向けてどのように学習・対策をするか（アドバイス）

【英語】

授業で使用している英語教科書の内容を、精確に理解できるようにしておいてください。また、各種参考書なども参照して、単語・イディオム・構文等の文法理解を継続的に深める取り組みをすると良いでしょう。さらに、試験では精確な和訳をすることも求められますので、英文和訳を練習するにあたり、日頃から、「その英文・英単語に対応するより適切な日本語が何であるか？」を常に意識しておくことも学びの助けになると思われます。

【国語】

学習には特効薬があるわけではありません。普段の生活や高校の学習の中での地道な積み重ね、そこでどれだけ文字や言葉に敏感でいるか、どれだけ厳密に言葉や文章を捉え、それについて考えるか、ということが大切です。言葉や漢字について、多くの人はわかっている、読める、書けるつもりになりがちです。遠回りに思えるかもしれませんが、一瞬不安に思ったそのときに、辞書などで確認することが、確実な知識として蓄積される方法です。また、文章を一つ一つ丁寧に、厳密に解釈するとともに、その文章全体で何を言わんとしているのか考える、という癖をつけることができるとよいでしょう。

【公民】

公民科は高校によって履修科目が異なることから、出題については基本的に「現代社会履修者」でも「政治・経済履修者」でも対応できるように配慮しています。法学部で学ぶための基礎として、高校での公民科の学習や時事問題への関心は重要です。

対策としては、日頃の授業を大切に知識を積み重ねることと、新聞やニュースに触れて時事問題への関心を高め自分で調べる習慣を身につけることを挙げます。大学の学びではそのようにして獲得した知識を活用する場面が数多くありますので、まずは今できる学習を大切にしましょう。

【小論文】

小論文は高校でも継続的に書く機会があるかと思いますが、実際に書いて読んでいただき、そのコメントをもとにさらに練り上げていくことを繰り返すことで上達していきます。小論文には読み手がいますので、読み手に伝えることを意識して書くようにしましょう。

内容面については、本学では法学部志望者としての意欲を確認し、自らの考えを表現してもらうために小論文を実施していますので、時事問題を含めて現代社会の課題に目を向けることが大切です。いまはみなさんが持っているスマホなどでも新聞やニュースを見ることができます。まずタイトルを眺めて、いま何が起きているのかを知りましょう。そして気になった記事を読んでみて、自分の考えをまとめたり話し合ったりしてみてください。知識を身につけ活用することで、あなた的小論文はより説得力あるものとなるはずですよ。